消防•防災 政策番号 26 政策分野

京都に息づいている「人間力」に支えられた「地域力」を結集し、行政と一体となった防火防災活動を推進する。また、あらゆる災害に迅速的確に対応する消防、防災、救急体制を確保 **基本方針** し、だれもが安心して住み続けられる「安心都市・京都」をめざす。

担当局 消防局 共管局

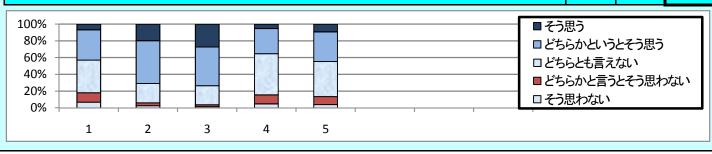
政策の評価

1 客観指標評価

		23年度 32年度	年度	年	23年度評価					
	1915年1	評価値	目標値	度	度	前回値	最新値	目標値	達成度	評価
	火災による死者(放火自殺者等を除く)の割合(過去の平均値との比較)(%)	71.4	50%以下	-	-	78.5	71.4	50%以下	57.2%	b
2	市民が応急手当を実施した割合(%)	36.4	70%以上	-	-	41.6	36.4	44. 6%以上	81.6%	С
3	-	-	-	1	-	1	ı	-	-	-
4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	客観指標総合評価									b

2-1 市民生活実感評価

番号	設問		評価	
H 7	DX [H]	年度	年度	23年度
1	身近なところで防火意識が高まり、出火防止の取組が進んでいる。	-	-	С
2	京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。	-	-	а
3	消防署は、火災や事故などが発生した場合に適切に対応し、いざというときに頼りになる。	ı	1	а
4	応急手当の知識や技術を備えたひとが増えている。	ı	1	С
5	防災意識の向上とともに,地域ぐるみの災害対応力が高まっている。	ı	ı	b
6	-	ı	ı	_
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
	市民生活実感調査総合評価			b



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

年	度	年	度	23年	F度
順位	%	順位	%	順位	%
-	-	-	1	3	34.3%

3 総合評価

B 政策の目的がかなり達成されている 【客観指標】・火災による死者の割合は、火災発生件数とほぼ比例して前年から改善しているが、過去10年間の平均値を半減していく目標には届かず、b評価となった。・市民が応急手当を実施した割合は、前年から減少し、c評価となった。応急手当の受講者数は堅調に増加していることから、一般市民にとっての実践の難しさがうかがわれる。		
ているが、過去10年間の平均値を半減していく目標には届かず、b評価となった。 ・市民が応急手当を実施した割合は、前年から減少し、c評価となった。応急手当の受講者数は堅調に増加していることから、一般市民にとっての実践の難しさがうかがわれ	В	
	ているが,過去 ・市民が応急 講者数は堅調	度 -
【市民の実感】・文化財を守る意識と消防組織の頼りがいについては、幅広く実感を得ている。応急手当の技術等の普及はあまり実感されておらず、受講者数の増加よりも応急手当の実践が進んでいない状況を反映している。	ている。応急	
【総括】・概ね取組等の実態に見合った実感を得た結果となった。 ・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。 年度 -		度 -

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照
心來甘力	心 束石			23	ページ
2601	火災を未然に防止して市民のいのちとくらしと財産を守る予防消防の推進	-	-	В	275
2602	あらゆる災害による被害を最小限に抑える消防活動体制の充実強化	-	-	В	277
2603	市民への応急手当の普及啓発と救急体制の充実による救命効果の向上	-	-	В	279
2604	地域の災害対応力の向上をはじめとする防災危機管理体制の充実	-	-	С	281

<今後の方向性>

- ・市民と共に防火防災に取り組む「地域密着型の消防」と、あらゆる災害現場に的確に立ち向かう「力強い消防」を推進していくこととしている。
- ・東日本大震災の発生を受けて,これまでの防災対策の総点検を行い,スピード感を持って対応策を検 討し,実行していくこととしている。

	名		26	消防・	防災						
指標	名	火災に	よる死れ	者(放り	火自殺者等を除	く)の割合(過	去の平均	値との	比較)	(%)	
担当	i部室		予防部			連絡先	2 1	2-6	672		
	標の説明				Mer						
火災に。	よる死者	(放火	自殺者等	と除く)	の数						
<mark>2 指</mark> 火災に。 况を示っ		味 数ゼロ <i>0</i>	の安心なる	まちへの	進捗状	3 算出方法 算出方法: 火災に 者数の平均値(1 出典: 事業担当	こよる死者 4人)	等 数÷過≠	₹10年	間の火災	による死
4 数	値										
0年後 <i>0</i> 標値	の(平成32	2年度)	平成23年 71		平成32年度目標値 50%以下	過去10年間	(平成124	根拠	21年)の	の平均値の	D半減
	前回	数值	最新	数值		l	ì	鱼年度目標	値		
	21年		22年		推移	数値		村	見拠	A01 (T)	達成度
数値	78	3.5	71	.4	7.1ポイント減	50%以下		間(半成1 1人)の半		成21年)の	57.2%
	全国順位	数値	目標年次	達成度	中長期目標	拠					施している
数値		刈 心	口凉十久	正队汉	110			備考	ため, 記載	年度を年と	読み替えて
	価基準				<u>l </u>		J		7 評	·価結果	
e:80%	を超え8 を超え1 %を超え %以上	10%未清	苗		死者数が多い年((19人)以上を	た。過去10年間 (平成19年) の1 e とし,aとeの	35%		_	_	l _b
					ば均等に分割し設						
指標			応急手 安全救急音		をした割合(%		2 1	2-6	7 0 2	<u> </u>	
指標 担当 1 指 心肺停」 2 指 高い救命	名 部室 標の説明 上傷病者 標の意味 命効果を	9 明 に対して	安全救急部	部こより応	をした割合(%	連絡先	・出典等		7 0 2		
指標 担当 1 指 1 指 2 指 3 で 3 で 3 で 4 数	名 部室 標の説明 上傷病者 標の意味 命効果を調整	男 に対して 味 誇る安心	安全救急部 て, 市民/	部 こより応 への進捗	をした割合(%	連絡先 れていた割合 3 算出方法 出典:事業担当	・出典等	车	7 0 2		
指標 担当 1 指停 2 1 1 指停 2 1 1 数 4 数 0 6 0 6	名 ・部室 ・標の説明 ・上傷病者 ・標の意味 ・一 ・一 ・一 ・一 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	男 に対して 味 誇る安心	安全救急部 て, 市民/	部 こより応 への進捗 度評価値	をした割合(%	連絡先 れていた割合 3 算出方法 出典:事業担当	• 出典 等 課調べ	等			
指標 担当 1 指停 2 高示す 4 数 10年後	名 部室 標の説明 は傷病者 標の意味 一般 ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで のので の。 のので ので のので の	男 に対して 妹 誇る安心 2年度)	安全救急部 て, 市民/ 心なまち/ 平成23年 36	の進捗 を評価値	をした割合(% 急手当が実施さ 状況を 平成32年度目標値	連絡先 れていた割合 3 算出方法 出典:事業担当	• 出典 (季 根拠 当部で記	设定		
指標 担当 1 指停 2 高示す 4 数 10年後	名 部室 標の説明 上傷病者 標の意味 命効果を調整	9 明 に対して 株 誇る安心 2年度)	安全救急部 で、市民に 心なまちへ 平成23年	の進材 を要評価値 .4	をした割合(% 急手当が実施さ 状況を 平成32年度目標値	連絡先 れていた割合 3 算出方法 出典:事業担当	• 出典 等 課調べ	等 根拠 当当部で記 単年度目標 も	设定 値 現拠		達成度
指標 担当 1 指停 2 高示す 4 数 10年後	名 一部室 標の説明 上傷病者 標の意味 一部室 ででである。 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 では、	9 明 に対して 株 誇る安心 2年度)	安全救急ぎ で、市民に いなまち、 平成23年 36	ボースより たい かまり では できます できます できます できます できます できます できます できます	をした割合(% 急手当が実施さ 状況を 平成32年度目標値 70%以上	連絡先 れていた割合 3 算出方法 出典:事業担当	 出典等 課調べ 基準年次 	季 根拠 当部で記 単年度目標 ヤ (平成22 (平成32年	沙定 値 建拠 1年41.€ 570%以	%) と目 上) から 等差的に	達成度
指標 担当 1 指標 2 下す 2 下す 4 を 4 を 4 の 4 を 6 位 1 を 1 の 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に	名 一 標の説に 上傷病者 標の意味 一 一 一 の で で で の の の で で の の の の の の の の の の の の の	明 に対して 味 誇る安心 2年度) 数値 手度	安全救急音 で、市民/ ごなまち/ 平成23年 36 最新 22年 36	ボースより応 への進捗 度評価値 i.4 数値 F度	をした割合(% 急手当が実施さ で成32年度目標値 70%以上 推移 5.2ポイント減 中長期目標	連絡先 れていた割合 3 算出方法 出典:事業担当 数値 44.6%以上	• 出典等 課調べ 基準年次 導年年度	季 根拠 当部で記 単年度目標 ヤ (平成22 (平成32年	と定 値 現拠 1年41. 6 下70%以 を 数値を	.上)から 等差的に	達成度
指標	名 一部室 標の説明 上傷病者 標の意味 一部室 ででである。 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 では、	明 に対して 株 誇る安心 2年度) 数値 拝度	安全救急部 で、市民/ ンなまち/ 平成23年 36 最新 22年	ボースより応 への進捗 度評価値 .4 数値 F度	をした割合(% 急手当が実施さ で成32年度目標値 70%以上 推移 5.2ポイント減 中長期目標	連絡先 れていた割合 3 算出方法 出典:事業担当	• 出典等 課調べ 基準年次 導年年度	季 根拠 当部で記 単年度目標 ヤ (平成22 (平成32年	と定 値 収拠 1年41. 6 三70%以 を 数値を 年単位	上)から 等差的に で統計を集	達成度
指標 当 指 停 1 いす 4 4 年標	名 一部室 標の説に 上傷病者 標の意味 一部室 でででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 ででする。 できる。 で。	明 に対して 味 誇る安心 2年度) 数値 手度	安全救急音 で、市民/ ごなまち/ 平成23年 36 最新 22年 36	ボースより応 への進捗 度評価値 i.4 数値 F度	をした割合(% 急手当が実施さ で成32年度目標値 70%以上 推移 5.2ポイント減 中長期目標 根	連絡先 れていた割合 3 算出方法 出典:事業担当 数値 44.6%以上	• 出典等 課調べ 基準年次 導年年度	季 根拠 当部で記 当年度目標 12 (平成32年 6成すべき	を定 値 収拠 1年41.6 を 変数値を 年単め、 記載	上)から 等差的に で統計を実 年度を年と	達成度 81.6% お読み替えて
指標 当 指 停」 1 心 2 高示 4 10目 数 数 値 評 5 1 1	名 部室 標の説明 標の意味 でででする。 でででする。 でででする。 ででする。	明 に対して 味 誇る安心 2年度) 数値 乗度	安全救急音 で、市民/ ごなまち/ 平成23年 36 最新 22年 36	ボースより 応 を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	をした割合(% 本した割合(% 本した割合(% 本手当が実施される。 で成32年度目標値 70%以上 推移 5.2ポイント減 中長期目標 根 6 基準説明	連絡先 れていた割合 3 算出方法 出典:事業担当 数値 44.6%以上	・出典等基準年年次度基本の	季 根拠 当部で記 当年度目標 12 (平成32年 6成すべき	を定 値 収拠 1年41.6 を 変数値を 年単め、 記載	上)から 等差的に で統計を集	達成度 81.6% お読み替えて